

ヒバクシャ国際署名 55 万筆を超えるー

4.21 ステップアップ集会開かれる

昨 2017 年 7 月 7 日に国連で核兵器禁止条約が採択され、現在 58 国が署名、10 か国が批准しています（2018 年 5 月 30 日現在）。条約は 50 か国が批准した 3 か月後に発効します。人類は核兵器の禁止から廃絶に向けて確実な一歩を踏み出したのです。

去る 4 月 21 日、核兵器禁止条約を発効させ核兵器廃絶の展望を切り開こうと、札幌市教育文化会館でヒバクシャ国際署名ステップアップ集会が開かれました。

ヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会の主催です。

集会は、まず代表呼びかけ人一人北海道被爆者協会の眞田保会長が開会の挨拶、次いで日本被団協事務局次長の藤森俊希さんが「憲法 9 条を輝かせ核兵器のない世界を」と題して講演しました。藤森さんは自身の被爆体験を語った後、核兵器禁止条約交渉会議や ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）のノーベル平和賞授賞式などに立ち会った豊富な国際経験をおりませながら、核兵器禁止条約に至る世界の流れ、条約の意義などについて話しました。特に「いま女性が平和な地球を創ろうと奮闘している」「被爆者が呼びかけた署名は訴える力、共同を進める力がある」などの言葉は参加者にも強い感銘を与え、「歴史的な流れの中で条約の意義がよくわかった」「もっと聞きたかった」などの感想が寄せられています。

ついで道民の会が集約した署名数が 3 月末で 55 万筆を超えたことが報告され、いくつかの代表的な取り組みの報告が行われました。コープさっぽろの理事で組合員活動委員長の林朋子さんは、組合員の関心が高くオールコープで短期間に 32 万人以上の署名を集めたこと、また平和運動フォーラムの難波優事務局長は様々な平和の課題とともにヒバクシャ署名を位置づけて取り組んだこと、新婦人札幌手稲支部の高際洋子平和部長は、手稲の冬まつり「雪っていいね」での署名活動や地域での草の根の取り組みなどが報告されました。そして帯広市の非核平和都市宣言推進実行委員桜谷和博さんから、ヒバクシャ国際署名に取り組むことを決めた平和首長会議の決議を力に、行政にも働きかけ、市の平和展やコミュニティーセンターなどに署名簿を置き、氷祭り会場でも署名行動が実施できたことなど、それぞれ創意あふれる取り組みが報告されました。

そして被爆二世の松田ひとえさんが、二世としての思いを語ってシャンソン「ヒロシマ」（M. ファノン）を歌い、会場の人々と核兵器廃絶への思いを共有しました。





集会には会場いっぱいの約 130 名が参加、2020 年までに道民過半数の署名を集めようと確認しあいました。

続いて中心街での署名行動に移りました。被爆者 10 名が「核兵器のない世界をめざし、あなたの署名を国連へ」と書いた横断幕を手に訴え、藤森俊希さんや眞田保さんが「生きているうちに核兵器をなくしてほしいというのが被爆者の切実な願いです」「国連で核兵器禁止

条約が採択され、次は皆さんの署名で核兵器を廃絶しましょう」とこもごも訴えました。30 分余りで約 121 筆の署名が寄せられました。

北海道民の会では条約採択 1 周年記念の 7 月 7 日に次の共同の署名行動を予定しています。